

第4回日韓湿地フォーラムを開催 ラムサールCOP10の成果と今後の課題を確認



韓国・仁川の埋め立て計画地のそばにあるクロツラヘラサギの営巣地



フォーラムでは日韓の湿地保全について活発な討議が行われました

日韓から約40名が参加！

7月3日・4日の2日間、韓国ソウル近郊の高陽(コヤン)市で、第4回日韓NGO湿地フォーラムが開催されました。

このフォーラムでは、昨年秋季に韓国で開催されたラムサール条約第10回締約国会議(COP10)でのNGOの取り組みを総括するとともに、来年、名古屋で開催される生物多様性条約COP10に、活動の成果を引き継いでいくための取り組みなどについて、活発に意見を交わしました。

今回、日本からの参加者は9名

(浅野正富、伊藤よしの、柏木実、呉地正行、陣内隆之、菅波完、田中博、花輪伸一、堀良一)で、韓国側からは、総勢30名近くの方が参加しました。

実を言うと、開催前は韓国側の主要メンバーの都合がつかないという話もあり、少人数の集まりになるのではないかと心配していたのですが、結果として、昨年のラムサール条約会議で中心的に活動していたメンバーは、ほとんどが顔をそろえました。(韓国のNGOは、やはり本番に強かった！)

韓国ではCOP10以降も 大規模な湿地破壊が進行中

韓国側の参加者からは、ラムサール条約会議の後も、大規模な開発事業による湿地の破壊に歯止めがかからず、極めて深刻な状況であることが報告されました。

日本から参加したメンバーは、フォーラム前の午前中に、問題の現場を案内してもらいました。

その一つは、仁川(インチョン)市の沿岸で進められている広大な

干潟埋め立て事業、もう一つは、ソウル市から黄海に流れる漢河(ハンガン)の河道を大規模に掘削し拡大する「大運河」工事の現場です。短時間の視察ですが、とにかく埋め立ての規模や、河道工事の巨大さに驚くばかりでした。

なお、仁川の埋め立て計画地のすぐそばでは、最近、クロツラヘラサギが営巣・繁殖をしていることがわかり、注目を集めています。私たちもその現場を訪ね、しっかりとクロツラを観察してきました。(上の写真がその営巣地です)

次回は来年3月に日本で開催

ラムサール条約会議に向けた日韓湿地フォーラムは、2007年から継続的に取り組んできました。その協力関係が、昨年のCOP10の原動力になったことは間違いありません。今回の第4回フォーラムで、日韓の協力関係はさらに確実になったと思います。

次回は来年3月に東京で開催し、生物多様性条約会議へのステップにすることとしました。

シンポジウム「湿地の生物多様性」のお知らせ

ラムサールCOP10からCBD-COP10へ10月17日、名古屋で開催

ラムサール・ネットワーク日本では、シンポジウム「湿地の生物多様性」を10月17日に名古屋で開催します。このシンポジウムではラムサールCOP10を振り返りながら、来年10月に名古屋で開催さ

れる生物多様性条約会議(CBD-COP10)に向けて、ラムサール条約と生物多様性条約の連携による湿地保全の取り組みについて考えていきます。詳しくは4ページの開催案内をご覧ください。

— ドイツで感じた日本の豊かさ —

(2) 風土が生み出す自然観とその違い

ラムネットJ 共同代表 呉地正行



写真1
ベルリンの「生物多様性と持続的発展」シンポジウム
(右:筆者)

今回も「ドイツで感じたこと」の続きです。2007年7月に、ベルリンで「生物多様性と持続的発展」と題した公開シンポジウムが開催され、日欧の湿地の保全・再生や持続的な地域社会の建設をめざす先進的な研究・実践・政策についての報告が行われました。学ぶことが多く有意義なシンポジウムで、私自身も「農業湿地としての水田の特性を活かした水鳥と農業の共生をめざす取り組み」という演題で、蕪栗沼周辺での取り組みについて報告を行いました(写真1)。その中で「水田は、その原点において湿地を開発したものが多く、『ふゆみずたんぼ』のように、その湿地機能をうまく活かせば、持続可能な利用が可能で、利用しながらその湿地機能を高めることも可能だ」と述べました。それに対して会場ドイツ人から、ふゆみずたんぼの取り組みに対して、「人間が自然に対して関わる時に、保全する地域と利用する地域はきちんと分け、同じ場所で保全と利用を同時に行うべきではない」といった意見が出ました。これについての議論を通じて、私はドイツ(ヨーロッパ)と日本(アジア)の気候風土の違いが生み出した自然観の違いを強く感じました。

日本を含む高温多雨のモンスーンアジアでは、肥沃な土壌と豊かな水が人々に多くの恵みを与えてきました。が、時にその水は、台風や洪水となって人々の命を奪う大きな被害を与えてきました。抗しようがない大きな自然の力の中で、アジアの人々は自然への畏怖の念を持ちながら、自然と調和した文化を築き上げてきました。アジアの伝統的な水田農業はこの風土をうまく活かした湿地の持続



写真2 ドイツのムギ畑

可能な利用法で、その原風景が今も残る東南アジアの水田では、水田は稲以外に様々な魚介類、両生類、水草などの野生の生き物の生息地であるとともに、これらを食料として提供する複合生産の場として、現在も地域の食文化を支えています。残念ながら日本の水田ではこの機能は近年大きく損なわれてしまいました。水田の原風景を意識しながら、その湿地機能を高めようというのが、「ふゆみずたんぼ」の取り組みで、その道は未だ十分残されています。

ドイツでは、気温が低く、雨量も少なく、土地の生産力も低いので、農地は畑地や牧草地に限られ、環境への負荷量を減らすことはできても、水田のように利用しながら環境機能を高めることは困難です(写真2)。その一方、アジアでは問題となる豪雨・洪水などの自然の脅威は少ないために、人間が自然を支配・管理できるという考えがその根底にあると感じました。

松川浦を簡易気球で空から撮影

はぜっ子倶楽部/ラムネットJ 理事 新妻香織



今回の撮影により、私たちは足場が悪くなかなか全体像をつかめなかった湿地の植生や水域の広がりをつかむことができ、植物の色からかなりの精度で優占種を特定できました。またその植生からヒヌマイトトンボの生息する場所を新たに発見しました。

実はこの装置は開発から日が浅いことから、開発者の村上敏文さんはデモンストレーションやワークショップを広報業務として、交通費や謝金をいただかずに全国無料で行っています。この機会に皆さんの活動する湿地の空撮をお願いしてみたいかがでしょうか。

連絡先は、(独)東北農業研究センター福島研究拠点 村上敏文さん TEL024(593)6176 FAX024(593)2155 Eメール durian@affrc.go.jp

松川浦は福島県の北端にある700ヘクタールの広大な潟湖ですが、北西部の小さな塩性湿地にヒヌマイトトンボが生息しており、私たち「はぜっ子倶楽部」は研究者らと検討会を作ってこの湿地を見守っています。先日、この湿地の植生図を作るために空撮を行いました(右写真)。

空撮というと大掛かりなものをイメージしがちですが、私たちがお願いした「ひばりは見た!」というユニークな名前の装置は、小さなバルーンの下にコンパクトデジカメをつり下げ、釣竿で場所を移動させながらラジコンでシャッターを切るというもの(下写真)。最高200m上空から6ヘクタール撮影できるようです。



「ひばりは見た!」の詳細は、<http://tohoku.naro.affrc.go.jp/DB/hibari/index.html>または<http://www.h2.dion.ne.jp/~barnaba/baloon.html>

霞ヶ浦再生に向けた人々の夢を 踏みこむ国交省と研究者

NPO法人アサザ基金代表理事 飯島 博

小学生や市民が長年取り組んできた
自然再生地区が破壊されました。

全国の自然再生事業の先駆けとして、霞ヶ浦で2000年度に国土交通省やNPO、住民、研究者等が協働で自然再生事業（湖岸植生緊急対策事業）を実施しました。事業実施後に時間を経て確実に失われていた自然が回復してきましたが、今年6月にとんでもない事態が生じました。自然再生事業が実施された霞ヶ浦南岸にある境島地区内で突然工事が行われ、オオヨシキリやヨシゴイなどの野鳥が営巣し、アオヤンマなどの昆虫類が生息するヨシ原（再生）が重機で破壊され鉄板の下敷きになり、メダカの群れが見られたワンドが仕切られポンプによる強制排水によって干し上げられてしまったのです（写真）。住民に一切の情報はありませんでした。

この事態に驚き、工事の発注者である霞ヶ浦河川事務所に説明を求めたところ、「生物多様性保全の観点から委員会の研究者の意見を聞きながら同地区内で実験を行っている」ということでした。こちらから、工事を実施している区域には、絶滅危惧種を含む多くの生物が生息し、繁殖中の種もある



ことを指摘すると、事務所からは「事前にこれらの生物への影響は考えていなかった。調査もしていない」という返事がありました。さらに、この地区では延べ数千人の小学生や地元住民が関わって、ヨシ原等の復元に取り組んできたことを指摘したところ、「その件についても事前に配慮をしなかった」という返事でした。この地区では、現在も、市民モニタリングや学校の環境学習、ボランティアによるアサザなどの再生活動が継続されています。自然再生推進法の成立当時そのモデルとされた同事業地区での国交省と研究者による破壊行為は、多くの問題を浮き彫りにするものだと思います。

ラムサール・ネットワーク日本 会員募集!!

ラムサール・ネットワーク日本（ラムネットJ）の会員と会費は右表のとおりです。個人を対象とする一般会員を原則としますが、団体・企業会員としても入会できます。経済的な支援が可能な方は、ぜひ特別会員での入会をお願いします。

会員になるとメーリングリストに参加でき、湿地保全に関する情報交換が可能になります。また、年数回発行の「ラムネットJニュースレター」を送付いたします。

入会を希望される方は、下の入会申込書にご記入の上、下記の送付先までファックスか郵便でお送りください（または各項目を電子メールに書いてお送りください）。申込書送付後に、会員種別、口数に応じた入会申込金を、下記の口座までお振り込み願います。（恐れ入りますが、振込手数料はご負担ください）

会員種別と入会申込金（年会費）

会員種別	正会員		賛助会員	
	総会での議決権があります		総会での議決権がありません	
一般	1口	5,000円	1口	2,000円
団体	1口	10,000円	1口	10,000円
特別	50,000円以上		30,000円以上	
企業	-		1口	100,000円

【申込書の送付先】ラムサール・ネットワーク日本 〒113-0021 東京都文京区本駒込4-38-1 富士ビル2F TEL 03-5842-1882 FAX 03-5842-1882 Eメール info@ramnet-j.org

【会費のお振込先】郵便局から ゆうちょ銀行 振替口座 00140-0-765702 ラムサール・ネットワーク日本
一般銀行から ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキユウ）店 当座預金 0765702 ラムサール・ネットワーク日本

ラムサール・ネットワーク日本 入会申込書 (年 月 日)

会員種別 (年会費)	正会員	<input type="checkbox"/> 一般 (1口5千円) <input type="checkbox"/> 団体 (1口1万円) <input type="checkbox"/> 特別 (5万円以上)			年会費 口数	口	
	賛助会員	<input type="checkbox"/> 一般 (1口2千円) <input type="checkbox"/> 団体 (1口1万円) <input type="checkbox"/> 特別 (3万円以上) <input type="checkbox"/> 企業 (1口10万円)					※特別会員は 年間金額
個人 (一般会員、特別会員)				団体会員、企業会員			
氏名				団体名			
所属 (無記入でも可)				代表者	担当者		
住所	〒			電話番号			
Eメール				メーリングリストへの参加 <input type="checkbox"/> 希望する <input type="checkbox"/> 希望しない			

湿地と生物多様性

—ラムサールCOP10からCBD-COP10へ—

ラムサール条約は生物多様性条約と深いかかわりを持ち、湿地の生物多様性を守るために、生物多様性条約の事務局と覚え書きを交わし、共同作業計画を策定しています。今後、湿地を保全し湿地の生物多様性を守っていくためには、両条約がさらに緊密に協力関係を構築し、連携した取り組みを強力に推進していくことが極めて重要であり、その重要性を広く関係者に理解してもらうことが必要です。

昨年10月～11月には韓国で、ラムサール条約第10回締約国会議（ラムサールCOP10）が開催されました。来年10月には名古屋で、生物多様性条約第10回締約国会議（CBD-COP10）が開催されます。そのちょうど中間の時期に当たる本年10月17日、ラムサール・ネットワーク日本では下記の通り、韓国NGOから4名のゲストを招いて名古屋でシンポジウム「湿地の生物多様性 —ラムサールCOP10からCBD-COP10へ—」を開催します。このシンポジウムを契機に、両条約をもとにした湿地の生物多様性保全について普及啓発を図り、湿地の生物多様性を守る取り組みを前進させたいと考えています。

湿地保全と生物多様性に関心のあるみなさま、奮ってご参加ください。

- 主催：ラムサール・ネットワーク日本
CBD市民ネット湿地の生物多様性部会（予定）
- 後援（依頼中）：WWF ジャパン、(財)日本自然保護協会
(財)日本野鳥の会
- お問い合わせ：ラムサール・ネットワーク日本
TEL/FAX 03-5842-1882 info@ramnet-j.org

10月17日(土) 10:00～17:30
(開場9:30)

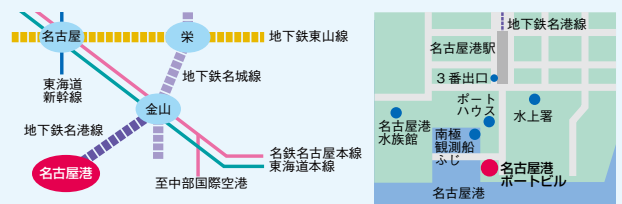
- 会場：名古屋港ポートビル 4F講堂
名古屋市港区港町1-9 TEL 052-652-1111
http://www.nagoyaaqua.jp/buil/index.html
- 参加費：無料（事前申し込み不要）

プログラム／発表者（予定）

開会挨拶

1. ラムサールCOP10の成果と課題点
日本：浅野正富（ラムサール・ネットワーク日本）／韓国：1名
2. ラムサールCOP10からCBD-COP10へ
 - 1) ラムサール条約と生物多様性条約における国際協力
日本：柏木 実（世界湿地ネットワーク）
〈昼食 12:00～13:00〉
 - 2) 日韓の湿地の危機とCBD-COP10
日本：堀 良一（よみがえれ！有明訴訟弁護団）／韓国：1名
 - 3) ポスト2010年目標として目指すべきもの
 - (1) 水田と集水域の保全
日本：呉地正行（日本雁を保護する会）／韓国：1名
〈休憩〉
 - (2) 沿岸・海洋の保全
日本：花輪伸一（WWF ジャパン）／韓国：1名
 - 4) 総合討論
—CBD-COP10に向けた具体的行動計画について—
進行：菅波 完（有明海漁民・市民ネットワーク）

閉会挨拶



地下鉄名港線・名古屋港駅下車（3番出口）徒歩5分
名古屋駅から地下鉄東山線・栄駅乗りかえ、名城線金山方面・名古屋港行き終点下車（所要時間約30分）

CBD-COP10のための特別協賛金のお願い

ラムネットJは、来年10月に名古屋で開催されるCBD-COP10を契機に、湿地の生物多様性保全の取り組みを推進していくため、本年10月17日には名古屋でシンポジウム「湿地の生物多様性」を、来年3月26～28日には東京で第5回日韓NGO湿地フォーラムを開催します。そして、CBD-COP10の期間中には、世界湿地ネットワークのメンバーを呼んでのNGO会議開催やブース展示、サイドイベント等を行う予定です。

これらの活動に関わる支出については、各種助成金や会費からの収入を充てますが、それだけでは十分ではありません。そこで、皆様からCBD-COP10のための特別協賛金を募ることといたしました。多くの皆様に協力いただきますよう、よろしくお願いたします。会員外の方からの協賛金も大歓迎です。

- 募集期間：第1期2009年9月～2010年3月
第2期2010年4月～2010年10月
- 特別協賛金額：1口5,000円
(できれば複数口お願いいたします)
- 振込先：3ページ(裏面)にある会費の振込口座(ゆうちょ銀行)と同様です。

※振替口座の場合は用紙に「特別協賛金」とご記入ください。当座預金の場合は振り込み後に、特別協賛金として送金した旨のご連絡を、FAXまたはEメールでお願いします。FAX 03-5842-1882 Eメール info@ramnet-j.org

●博多湾人工島のクロツラヘラサギ保全に関して意見書を提出
博多湾人工島では、埋め立て途上の人工的な湿地に、多くのクロツラヘラサギが飛来し生息しています。しかし埋め立て工事が完了し、人工湿地が乾燥すると生息場所は失われてしまいます。ラムネットJでは、この生息場所の保全を求めて署名活動を行っているウエットランドフォーラムの呼びかけに応じて、福岡市に対して人工島内の野鳥公園の拡大、福岡湾全体の湿地環境保全のために法的措置をとることを要望する意見書を8月20日に提出しました。

●北川湿地問題で公開質問書を提出
首都圏に奇跡的に残された神奈川県最大級の低湿湿地・北川湿地が、土地を所有する京浜急行の発生土処分場建設によって埋め立てられようとしています。この事業には、三浦市を含む三者合意の有無や環境影響評価との関連などさまざまな疑問点があることから、ラムネットJでは8月31日付けで京急と県に公開質問書を提出しました。残念ながら、京急は回答を拒否し、県の回答は十分な内容でした。詳細はラムネットJのホームページをご覧ください。

●三番瀬のラムサール条約登録に向けて、シンポジウム「ラムサール条約って何だろう？」日時：12月2日(水) 18時40分 場所：船橋フェリス6階キララホール 内容：環境省自然環境局・中山直樹氏の基調講演やパネルディスカッションなど。

主催：三番瀬のラムサール条約登録を実現する会 問い合わせ：Eメール anu172n@icnet.ne.jp (立花)

●第4回生物多様性シンポジウム「里山の恵みⅡ食糧と水と木材」日時：11月7日(土) 8日(日) 場所：千葉県いすみ市及びその周辺 内容：生物多様性を高める里山の再生を通しての地域の再構築、野生獣害、残土産廃への対策、生物多様性農法の構築などをテーマに開催します。

主催：里山シンポジウム実行委員会 問い合わせ：Eメール rinohara@tml.co.jp (荒尾)

